

出向く宮農レポート

～事前に対策しよう～



北部宮農センター瀬戸地域担当
小島 善治

瀬戸市瀬戸口町にお住まいの伊藤嘉朗さんは令和5年12月に産直会員になり、今年春からニンニクやタマネギの他、春夏野菜を出荷しています。

今年の5月からはチェーンポット苗による白ネギの栽培に挑戦しています。

8月下旬の圃場巡回では、ハモグリバエ、ネギアザミウマの食害を確認したので、コテツフロアブル散布と、雨や風の後にはZポルドーの散布をお願いしました。

今後の栽培管理は、1か月毎に、追肥をし、土寄せを行います。

伊藤さんは自宅が瀬戸グリーンセンターから近いので、農繁期には仕事の出勤前に出荷しています。

秋冬野菜は、白菜、ブロッコリーをプラグ苗から育てて出荷していきたいと意気込んでいました。

※チェーンポット苗とは、紙でできた育苗用ポット（ペーパーポット）のことで、ポットの1つひとつが連結しており、1度に連続して植えつけられます。



営農職員によるオススメ!

～ダイアジノン粒剤3～

P3にイチゴの栽培方法を
紹介しています!



ダイアジノン
粒剤3

10月はイチゴの植え付けの季節となり、店頭には人気の章姫をはじめ、様々な品種の苗が並びます。

イチゴ栽培は品種を選ぶ楽しさから始まりますが、収穫までに7か月を要し、畑で作る作物の中では手間のかかる野菜のひとつとなります。

手間と時間のかかるイチゴ栽培ですが、植え付け早々に苗の元気がなくなってしまうたり、株元を食べられて枯れたりしてしまうことも少なくありません。

植え付け初期に株が枯れる要因として、土の中にいるコガネムシの幼虫やネキリムシが挙げられます。昨今の温暖化により、これらの害虫は10月になっても餌を探して、土壌の浅い場所で活発に活動しています。

そこに新鮮なイチゴの苗が植え付けられると、たちまち害虫の餌食になってしまいます。

そこで今回お勧めするのが「ダイアジノン粒剤3」です。

植え付け時に10㎡あたり60～90gを土壌に混ぜ込むだけで、植え付け初期の大切な苗を守ることが出来ます。

コガネムシ等の被害を免れた株は、有機質を多く含んだJAオリジナルの肥料「おいしいフルーツ」でしっかり栄養補給していただき、あま～いイチゴを収穫しましょう。